経済統計のあるべき姿を形作る

総務省統計局統計調査部
経済統計課
博松 良祐 KUREMATSU Ryosuke

平成 25年 4月 総務省採用
同 統計局総務課企画調整係
平成 25年10月 併任 統計局総務課審査係
平成 26年 7月 同 統計局統計調査部国勢統計課企画係
平成 28年 4月 同 政策統括官（統計基準担当）付統計審査官（経済統計担当）付主査
平成 29年 1月 同 政策統括官（統計基準担当）付統計企画管理官付総括担当主査
平成 30年 4月 内閣府経済社会総合研究所国民経済計算部国民支出課研究専門職
令和 2年 8月 米国留学（カーネギーメロン大学）
令和 4年 5月 現職

「統計行政」と聞いて、皆さんは何を思い浮かべますか？地味？変化が少ない？そんなことは全くありません。特に、私の携わっている経済統計は今、大きな変化のまっただ中にいます。

経済構造の把握

現在、私は、経済構造実態調査という統計調査の担当をしています。日本の経済構造を把握するため、5年に一度、経済センサス-活動調査という「経済の国勢調査」を行います。経済構造実態調査は、その中間年においても、効率的に全産業の経済構造を把握するために、限られた調査対象数をもとに行う統計調査です。

2012年の経済センサス-活動調査、2019年の経済構造実態調査の創設により、それまで産業ごとに異なる年次・周期で捉えていた経済構造を、毎年統一的に捉えることが可能となりました。

正解のない問題

経済統計は今まさに大きな変化の過渡期にいます。上記のように、経済構造統計が整備されたのはつい最近です。また、現代社会ではDXやGXなど、新たな経済活動が生々流転を繰り返し、日々変化しています。既存の枠組みでは把握の難しい、変化の激しい経済活動をどのように把握するのか。ビッグデータ等の新たなデータソースやAI等の最新技術の活用も、今後必要になってくるかもしれません。このような、経済統計のあるべき姿は、どこにも答えはありません。私は、日々、関係者と議論を重ね、このあるべき姿を追い求めています。

入省からの10年間を振り返って

これまでの役人人生の大半で統計行政に携わってきました。今思うことは、統計は社会から常に必要とされているということです。この実感は、常に私の仕事のモチベーションになっています。例えば、自身の携わった平成27年国勢調査をもとに、平成29年の衆議院小選挙区の区割り改定が行われ、統計は民主主義の根幹である選挙制度を支えていることを実感しました。

データの重要性が今後ますます高まっていく社会の中、国家の羅針盤である統計のメーカーである総務省において、答えのない問題に挑戦し続け、あるべき統計の姿を自ら作り出していく、そんな気概を持った皆さんとお会いできることを楽しみにしています。

卒業プロジェクト発表後、教授とメンバーと

留学中、友人とのサッカーで気分転換

霞が関の新たな働き方の実現に向けて

学生時代、総務省のインターンシップに参加し、初めて行政管理局のオフィスを訪れた時、衝撃を覚えました。抱いていた霞が関のイメージと大きく異なっていたからです。フリーアドレスを導入した広々とした明るく美しいオフィスで、活き活きと働いている職員の方に憧れ、ここで働きたいと感じました。

現在、私は行政管理局に所属し、霞が関の新たな働き方を模索し、オフィス改革の導入をはじめとして様々な業務改革を推進しています。ニューノーマル時代にも適合する柔軟な働き方の実現や行政全体の生産性の向上を目指し、尊敬できる上司や同僚とともに、チームの一員として改革に取り組んでいます。

経験から学ぶこと

入省してから、政策評価の推進、新たな統計の実施に向けた企画、Beyond 5G時代に向けた情報通信技術戦略の検討等に関わる多様な業務を経験してきました。

総務省の魅力のひとつとして、幅広い分野を所管しているため、様々な経験ができるということがあります。異動ごとにガラリと専門が変わるため、新たな知識を学び、新たな課題に向き合うことになります。はじめは戸惑い、苦労もありますが、刺激的で、自分の視野が広がっていることを実感できる充実した毎日です。

どこの部署においても、根底として大事なのは、国をよくしたいという思いです。専門性を追求しながらも、一つの視点から物事を捉えるのではなく、俯瞰した視点、幅広い視野を持つことが求められます。行政官とは、スペシャリストでもあり、ゼネラリストでもあるのだということを、身を持って感じています。

国家行政のあり方を考える

特に、総務省の行政管理・評価分野においては、国家行政全般をマネジメントする役割を担っています。急速に広がるデジタル化や新型コロナウイルス感染症の拡大等、日本を取り巻く環境が大きく変化する現在、行政も変化への柔軟な対応が求められています。今までと同様のことに取り組むだけではなく、10年後、100年後を見据えた行政改革に取り組んでいかなければなりません。総務省で、一緒に国家行政のあるべき姿を追求してみませんか。

政策評価の研究のためのアメリカ出張にて

行政管理局での打ち合わせ

変化の時代によりよい行政を考える

総務省行政管理局企画調整課
企画調整係長
山野井 知里 YAMANOI Chisato

平成 30年 4月 総務省採用
同 行政評価局政策評価課
令和 元年 7月 同 統計局統計調査部経済統計課
令和 2年 7月 同 国際戦略局通信規格課地域標準係長
令和 3年 7月 同 国際戦略局通信規格課標準化戦略室振興係長
令和 4年 4月 現職